

第2回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 議事要旨

1. 日時・場所

日時：令和5年9月8日（金）10：00～正午

場所：京都ガーデンパレス 2階「葵」

2. 出席者

【委員】（18名）

山極委員（座長）、西脇委員、門川委員、塚本委員、村田委員（以上共同代表4名）、池坊委員、ウスビ・サコ委員、内田委員、小川委員、沖田委員、阪口委員（代理出席）、千委員、田中委員、平尾委員、堀口委員（代理出席）、堀場委員（代理出席）、村尾委員（代理出席）、山地委員（代理出席）

【オブザーバー】

日向オブザーバー、三浦オブザーバー（代理出席）

3. 議事概要

- ・冒頭、座長あいさつの後、推進委員会の参加団体から提出のあった取組をまとめた「大阪・関西万博きょうとアクションプラン Ver. 1（案）」と「施策集」の概要について事務局から説明。取組を提出した委員から取組についてご説明いただいた後、委員の承認によりアクションプラン Ver. 1 が決定した。
- ・推進委員会の下に設置した若手部会（本推進委員会において、名称を EXPO KYOTO とすることが承認された）で検討した関西パビリオン京都ブース、万博500日前機運醸成イベント、万博会場における催事の企画案と今後の広報の進め方案について、事務局から説明し、委員の承認を得た。
- ・企業や団体の万博を契機とした取組の認証制度を開始するにあたり、制度のスキーム及びスケジュール案について事務局から説明し、委員の承認を得た。

<座長あいさつ>

- ・一昨日、EUの気象観測機関「コペルニクス気候変動パネル」により、今年の6～8月の世界の平均気温が1940年の観測開始以降最高値を記録したとの発表があった。国連のグテーレス事務総長が話していた、「地球が沸騰している」という表現にふさわしい。
- ・こうした状況は今後収まることがないことを踏まえると、万博も熱暑が中心になると思われる。いかにさわやかな京都の試みを世界の人々にお知らせできるかが重要になるし、気候対策も同時にやっていかなければならない。
- ・本日は非常に重要な議題、大阪・関西万博きょうとアクションプランや、京

都ブースなどのこれからの予定について審議いただく予定であり、活発なご意見を期待する。

<主な意見>

- ・万博が終わった後も京都ブランドの価値を高め、次世代の産業基盤や未来の京都を担う人材の拡大といったレガシーが残るよう、関係機関と連携しながら事業を推進していきたい。
- ・ちょうど文化庁が京都に移転されたという事もあるので、日本の誇るべき生活文化や日々の営みの中で、継承されている事を世界や日本国内の方々に体験していただき、京都文化や京都・日本のファンになっていただきたい。具体的には特に若い方々を中心とした体験活動をメインに行っていきたいと考えている。
- ・アクションプラン Ver.1 は、推進委員会の委員や団体の取組を取りまとめたものであるが、これを呼び水として、国際会議や国際的な学会、スタートアップによるピッチイベント、ビジネスマッチング、美術館や博物館の取組など企業や団体による様々な取組が出てくるのが重要
- ・万博が終わった後に何が残っているのかということや、それぞれの主体が万博を機に自分ごととして様々な課題解決に連携して取り組んでいくことが大事である。
- ・コロナ禍で外国人留学生の数は激減したが、他地域と比べ回復しており、海外からは京都は学ぶ場所であるという認識が定着している。また、インバウンドもこれからどんどん伸びていく。これらをうまく利用し、京都が世界に発信し、様々な地域の人たちが一緒に盛り上げていける場になればよい。
- ・万博の180日間にやっていることよりも、万博が終わった後にも、何かの形で継続していくという事の方に重点を置くべきである。万博を「起」とし、「承転結」として、その波及効果が長く京都において継続していくことがSDGsに繋がるのではないか。
- ・メタバースとかバーチャルなどにより多くの体験をできるようにし、万博会場で様々な京都体験ができ、そこからリアルな京都に行こうよという話になるとよい。さらに京都に行きたい人には京都に行けるよう、バスや舟など移動手段を用意するなどの運用を検討するべき。